

# NPO法人矢作川森林塾 今後（H26年度以降）の活動計画



都心を流れる矢作川の河畔に市民主導の官民協働事業(国土交通省豊橋河川事務所とのアダプト事業)で、市民が遊び、憩える河畔の都市林(人間観察の森)をつくる



## 平成 26 年度以降の矢作川森林塾の活動計画

平成 18 年 1 月から、高橋から加茂川合流点までの矢作川左岸約 1.5Km の荒廃した竹藪の伐採を、毎週土曜日午前 6 時 30 分から約 2 時間行ってまいりました。そして、今年 (H26 年) 3 月に約 10 万本の竹の伐採を完了しました。参加人員は次第に増加して、今では毎回約 25 名のメンバーで行っています。この間の延人員は約 3500 名に達します。伐採後には実生の木が勢いよく生えて来て都市林として景観の良い林に変身しつつあります。この景観の改善については太田豊田市長 (H26 年 3 月 21 日に感謝状)、豊田スタジアムをはじめとして多くの市民の方々に感謝いただいています。また、この活動は、国土交通省豊橋河川事務所とのアダプトに加え、H26 年 3 月 19 日に矢作川流域では唯一 NPO 法人矢作川森林塾が国土交通省中部地方整備局から河川協力団体として指定を受け、名実ともに、市民主導の官民共同活動として充実することができてきました。

NPO 法人矢作川森林塾の活動フィールドの活用については、橋の下世界音楽祭、天然鮎感謝祭、矢作川魚釣り大会と言った大きなイベントが毎年開催され、矢作川森林塾もこれらに共催しています。また、豊田東高等学校の環境保全教育として毎年 1 年生 250 人の現地でのボランティア学習を行っています。この他、一般市民の現地散策、野鳥の写真撮影、雑魚釣り、トランペット等の楽器の練習、弁当持参のピクニック等の活用人口も増える傾向にあります。

平成 26 年度以降は、この活動フィールドをより多くの市民が自然と触れ合う場所として整備して行きたいと考えています。都市林については、高橋から豊田大橋下流までの河畔を実生の木の林として川を見ながら散策できる散策路として整備して行きます。豊田大橋と久澄橋の中間地点から下の広場は鎮守の森と称して雑木林を整備し、人が戯れる森にして行きます。特に、久澄橋と加茂川合流点までは鬼ぐるみの林、桑の林、椿の林と言った特徴ある樹木の林として整備して行きます。さらに、豊田大橋と久澄橋の間は「釣って楽しい、見て楽しい」環境と風景のモデル地区として、釣り人には楽しい釣りができる環境、また、河畔や豊田スタジアムからは川で釣りをしている人をゆっくりと眺められる環境に整備して行きます。

一方川岸については、久澄橋下流に子どもが川に入って遊ぶことのできるビオトープ風セセラギを整備します。加茂川水門から矢作川との合流点までの加茂川は、流れを整備して川ガキの活躍の場とし、水門には魚が遡上できるように魚道を設置することを計画しています。これによって上流の高橋地区まで矢作川の魚が遡上できるようになると考えています。この他に、高橋近辺、高橋から久澄橋までの土手、久澄橋上のヨシ繁殖地を雑草公園として整備することを検討しています。また、現時点においても水と緑のおかげで他の公園には見られない多種多様の野鳥に出会うことができます。

このように、自然豊かなフィールドに整備を進めることによって、人が自然に溶け込み、自然と人間の融合を進めたいと思っています。すなわち、人間が自然を観察するだけでなく、自然の中に入って自由に自然と付き合えるようにしたいと思っています。そしてさらに、高齢者が堤防の上から自然と戯れる人達を観察できるようにしたいと思っています。私たちの NPO の活動範囲から逸脱するかもしれませんが、将来的には高齢者が憩える施設がここにできればと願っています。

このような「人間観察の森」は、豊田市の都心部に市民が自慢できる緑と水のフィールドと、これからの高齢社会に必要な、高齢者の憩いの場になると固く信じています。

以上の構想は NPO 矢作川森林塾の永遠の目標として努力して行きたいと思っています。





竹林伐採前

竹林伐採後の河畔の都市林



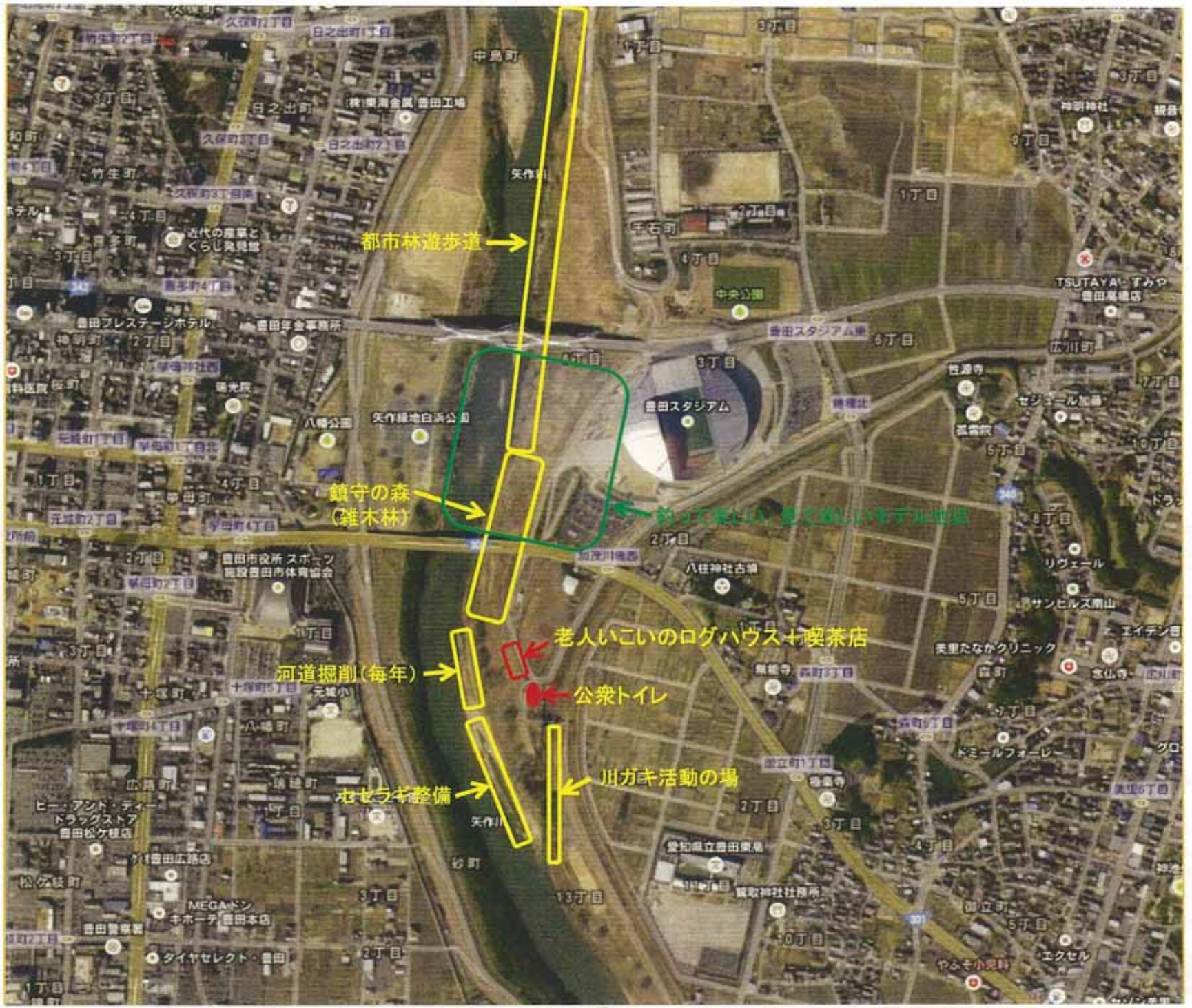
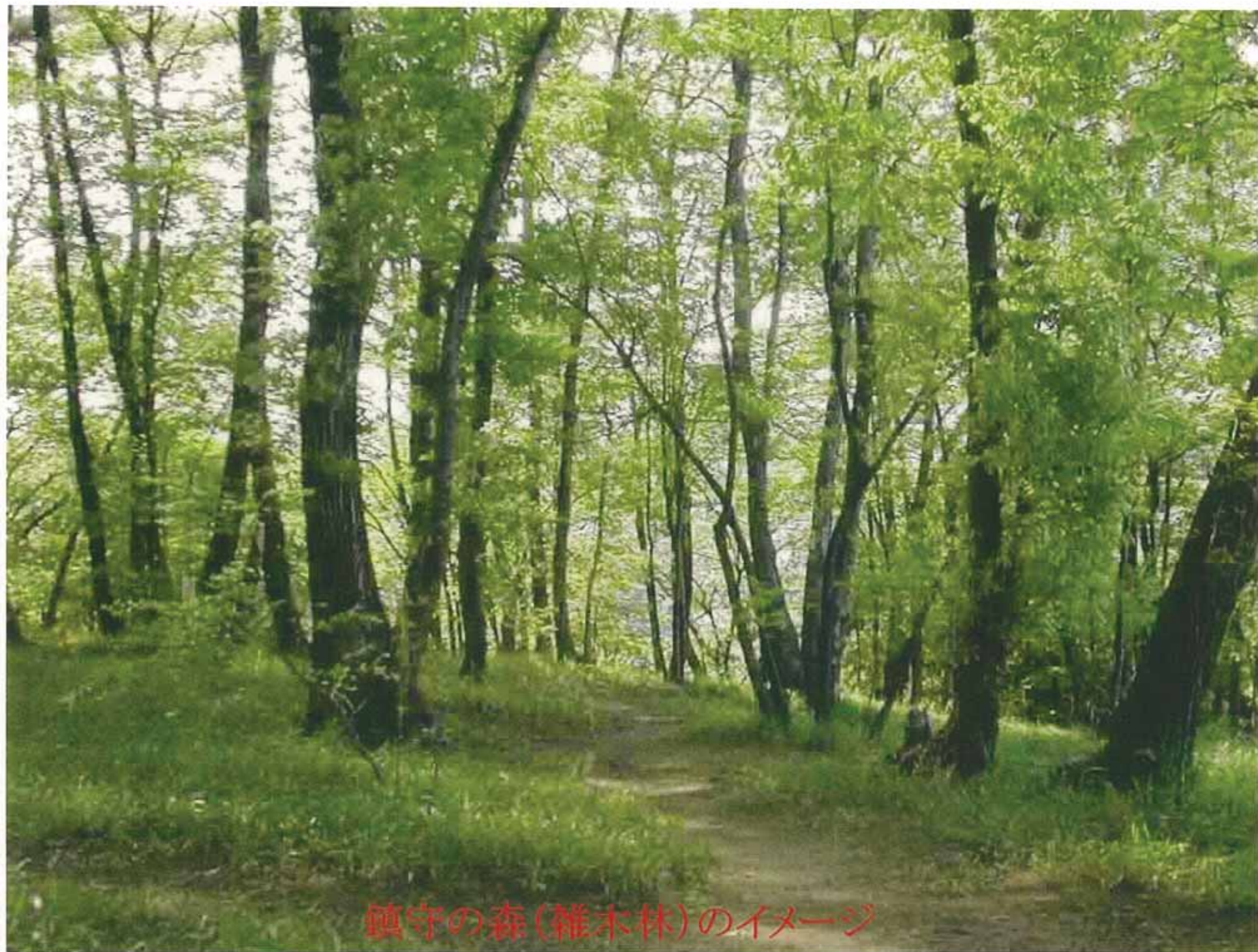






FIGURE  
Location  
of the  
Tree





鎮守の森(雑木林)のイメージ





河畔の都市林  
モデル地区

榎の林

クワ  
の林

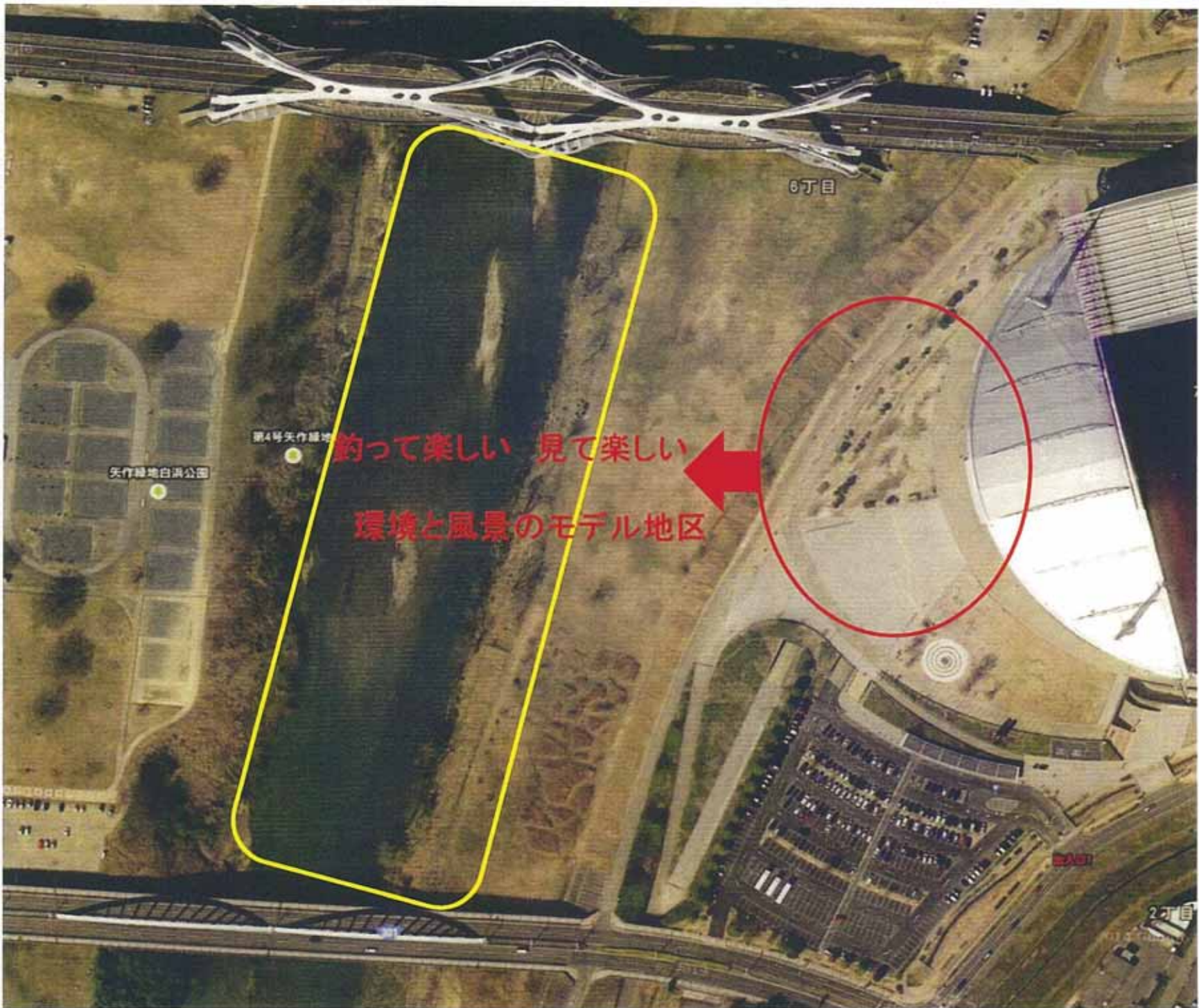
イベント広場

鬼グルミの林

鎮守の森  
(雑木林)

ビオトープ





釣って楽しい 見て楽しい  
環境と風景のモデル地区





釣って楽しい釣り環境



川に張出した樹木の枝の伐採



川に張出した樹木の枝の伐採



# 見て楽しい風景



豊田スタジアムレストランからの風景



レストランから見た釣り人





河道掘削(毎年) →

← 老人いきいのログハウス  
+ 喫茶店

← 公衆トイレ

河津村の風景  
変化

川の  
X-712  
をしてみたい





細かい砂

2013年台風19号の増水

ピオトープ風セセラギ

細かい砂

下流に行くに従って  
細かい砂になる

河道掘削エリア(毎年)

小石

砂は久澄橋下流へ

豊田大橋～久澄橋(釣り環境モデル地区)





セセラギ整備

矢作川

魚道設置

川ガキ活動フィールド



川ガキ活動フィールド

魚道設置





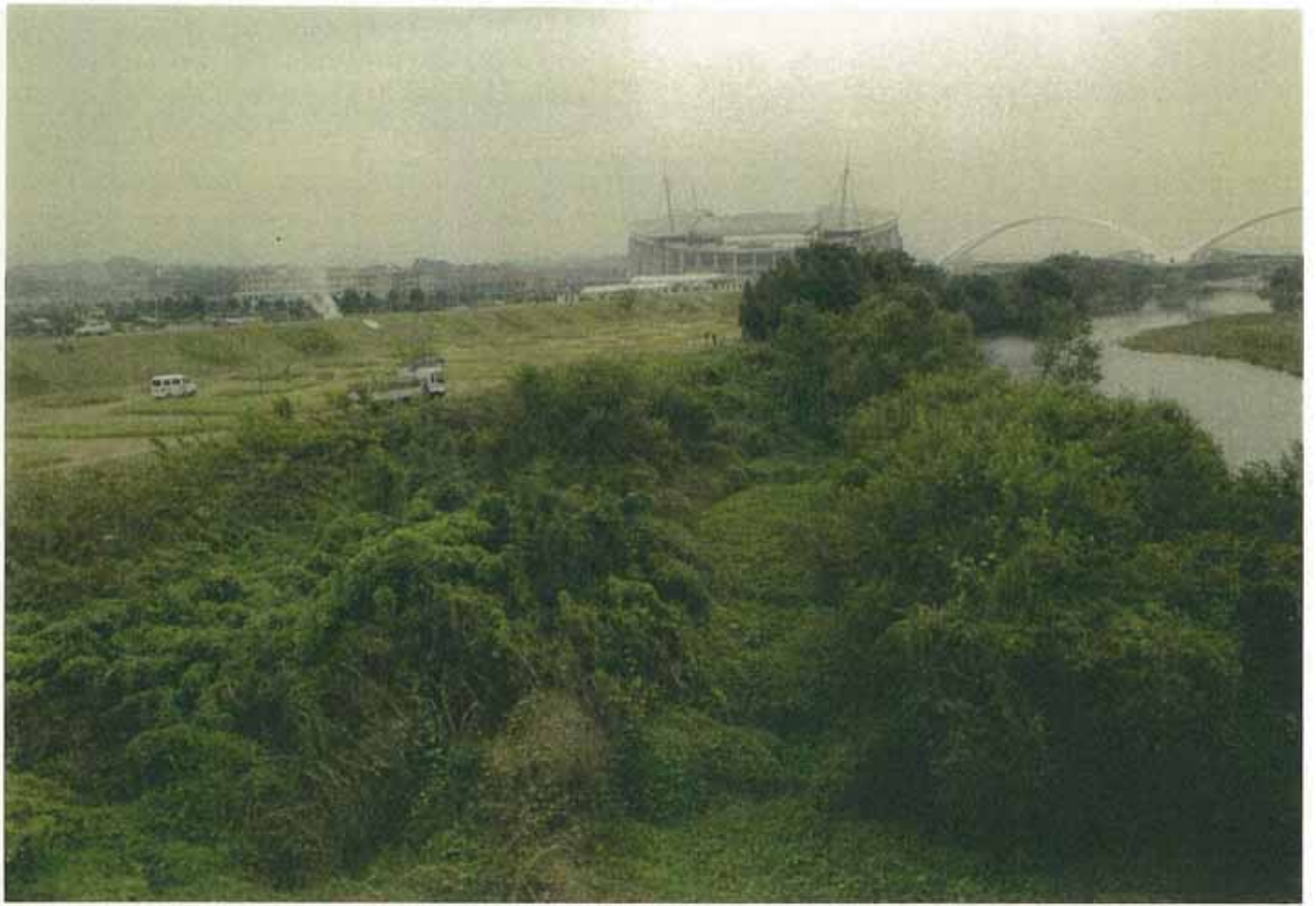
# NPO法人 矢作川森林塾活動報告



## 活動以前のフィールド















### 活動経緯

- |          |                            |
|----------|----------------------------|
| 2006年 1月 | 矢作川漁協森林塾として活動開始            |
| 2010年 4月 | NPO法人矢作川森林塾設立              |
| 2010年10月 | 国土交通省豊橋河川事務所と「矢作川アダプト制度」締結 |
| 2010年10月 | 「オオカナダ藻除去作戦」開始(豊田市河川課から委託) |
| 2012年 7月 | 国土交通省豊橋河川事務所から感謝状(環境保護 活動) |
| 2014年3月  | 国土交通省中部地方整備局から「河川協力団体」に指定  |
| 2014年3月  | 豊田市長から感謝状授与                |

### 協賛会員会社(順不同)

- 矢作川漁業協同組合
- トヨタ自動車株式会社
- 豊田鉄工株式会社
- 豊田信用金庫
- 株式会社豊田スタジアム
- 株式会社鈴鍵
- 豊田加茂ライオンズクラブ
- 太啓建設株式会社
- 豊徳鉱山株式会社

### 協力

- 国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所
- 豊田市(河川課、公園課、矢作川研究所)



活動状況



竹の収穫作業の様子

2013年10月







実生の木の芽



雑草と新竹との戦い



シナダレスズメガヤ



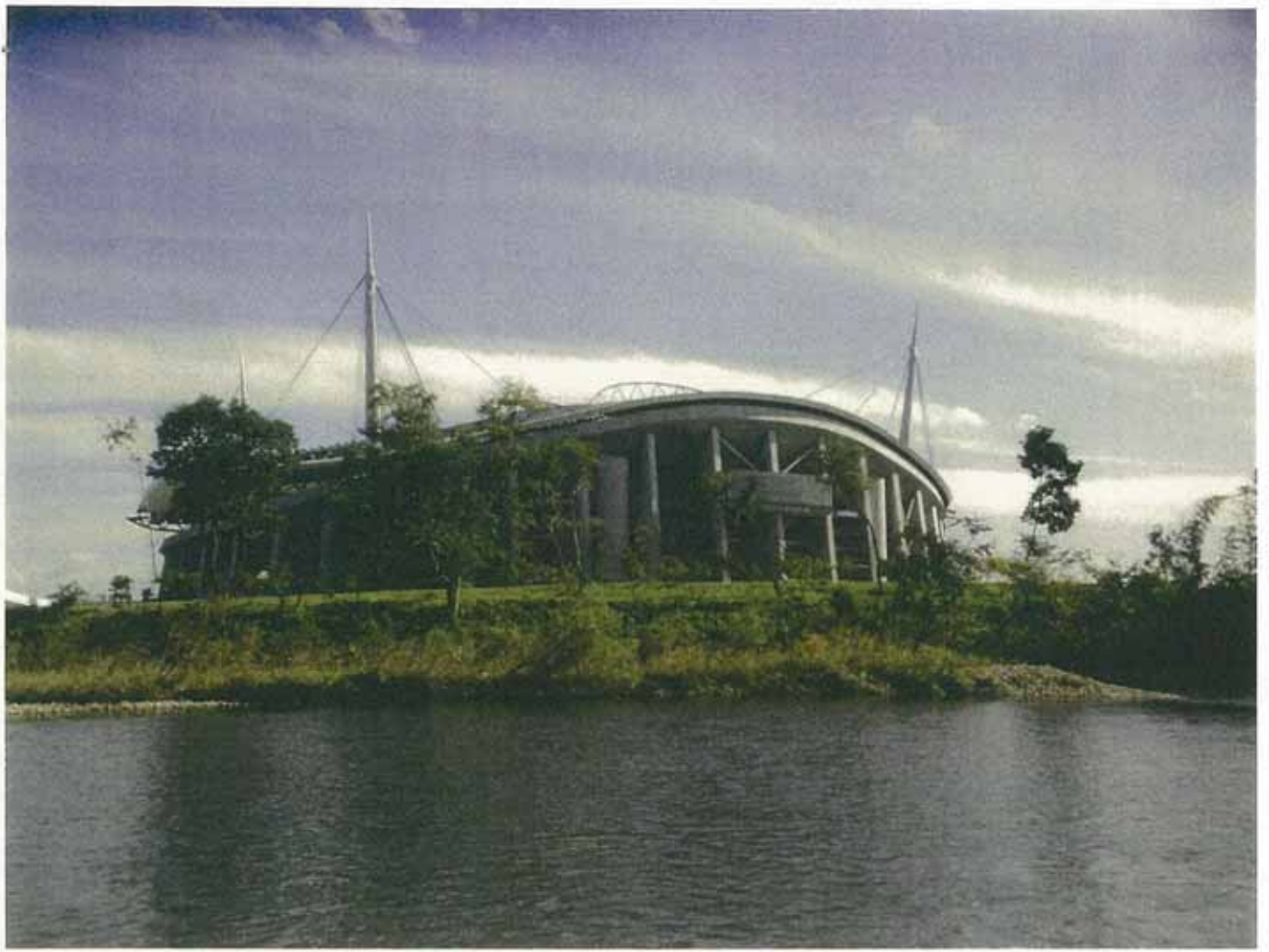




活動成果







活動前の豊田スタジアム前の竹藪



整備前後の豊田スタジアムレストランからの風景



国交省による河道掘削工事(河川の治水対策)

2011年10月～2012年3月







「人間観察の森」への挑戦  
 人が自然に溶け込み、共生する森。その様子を観察できる森。

イベント



天然鮎感謝祭



橋の下世界音楽祭



矢作川釣り大会

活用



豊田東高校野外環境実習



豊田青少年センター  
 「中学生ボランティア実習」



自然を満喫する市民



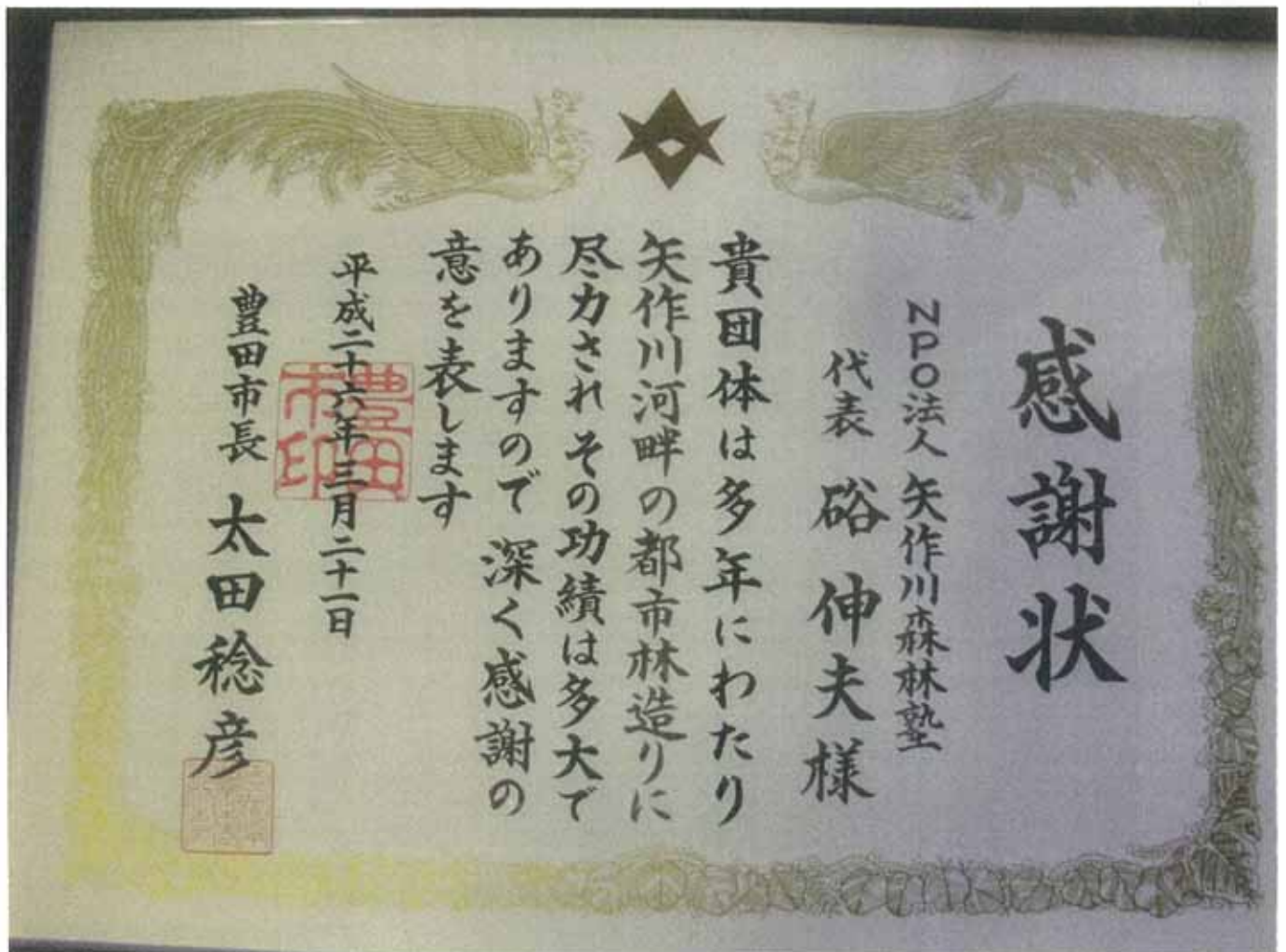
## 県立豊田東高等学校



豊田市駅から学校まで2kmほどの道のりを歩きながら、矢作川の緩やかな流れの向こうに豊田東高校の真新しい校舎が見えてきますと、「矢作川伝統を映す流れに 新しきいぶきを聴けよ」という校歌の一節が聞こえてくるようで、多くの卒業生や地域の方々が生徒たちを温かく見守ってくださっていることを感じます。

平成24年4月、本校はユネスコスクールに加盟しました。ユネスコスクールは文部科学省がESD(持続可能な開発のための教育)の推進拠点と位置づけてその増加に努めており、現在では幼稚園から大学まで全国で675校(平成26年2月現在)が加盟しています。ESDとは、私達一人一人が現代社会のさまざまな課題と自分とのつながりに気付き、多くの人と協働しながら、持続可能な社会づくりに参画する意欲と能力を育てる教育であるとされています。

校訓「敬愛」の精神のもと、総合学科の高校として生徒一人一人の「夢の実現」をスローガンに掲げてきた本校は、様々な人との関わり合いや学び合いのなかで、生徒が自らの夢を「さがし、ひろげ、はばたく」ことを目標として、これからも環境教育や国際理解教育、地域連携などの諸活動へ積極的に取り組んでいきます。



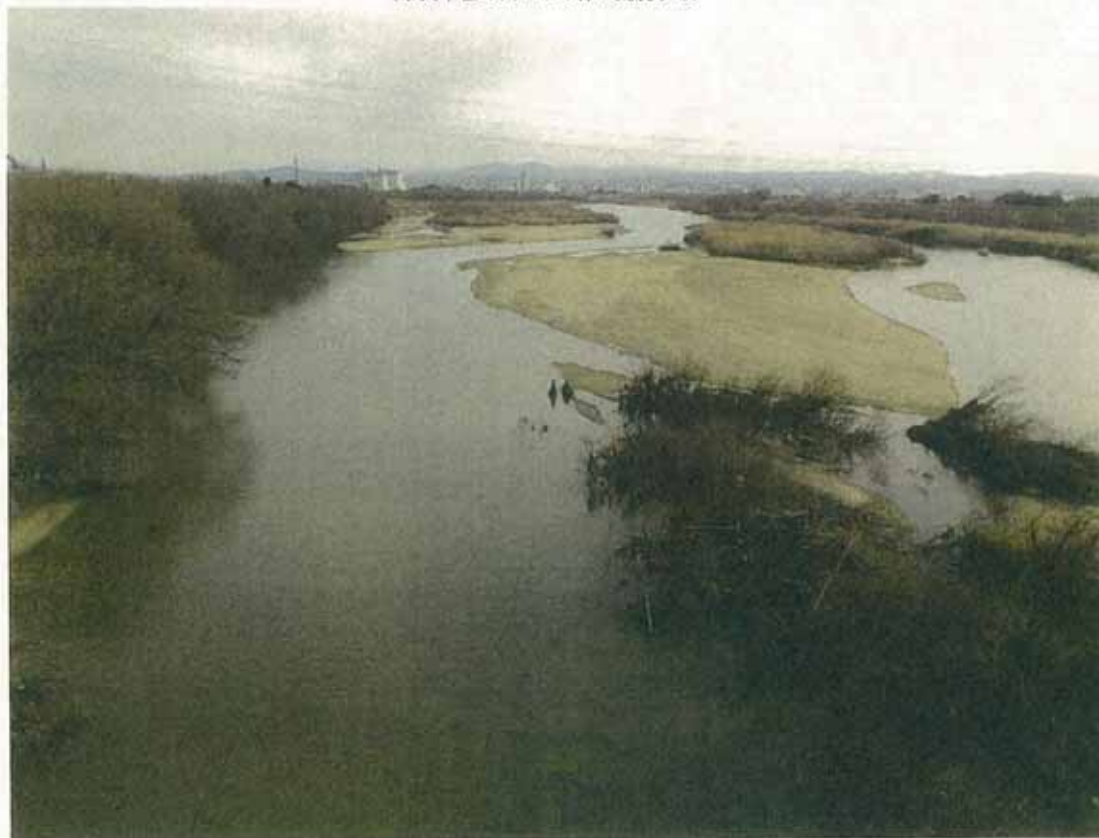




NPO法人矢作川森林塾活動メンバー(1部)

### 市民主導でない河川環境管理(例)

(市民不在の川はこの様に荒廃する)



矢作川の美矢井橋の現場を見に来ました。河川敷に樹木が繁茂し、川の真ん中には中洲ができ、増水時の水流を妨げます。放置すると水害につながりかねないので、国交省や市役所と調整していきます。

重徳議員Facebook(2013年2月17日)





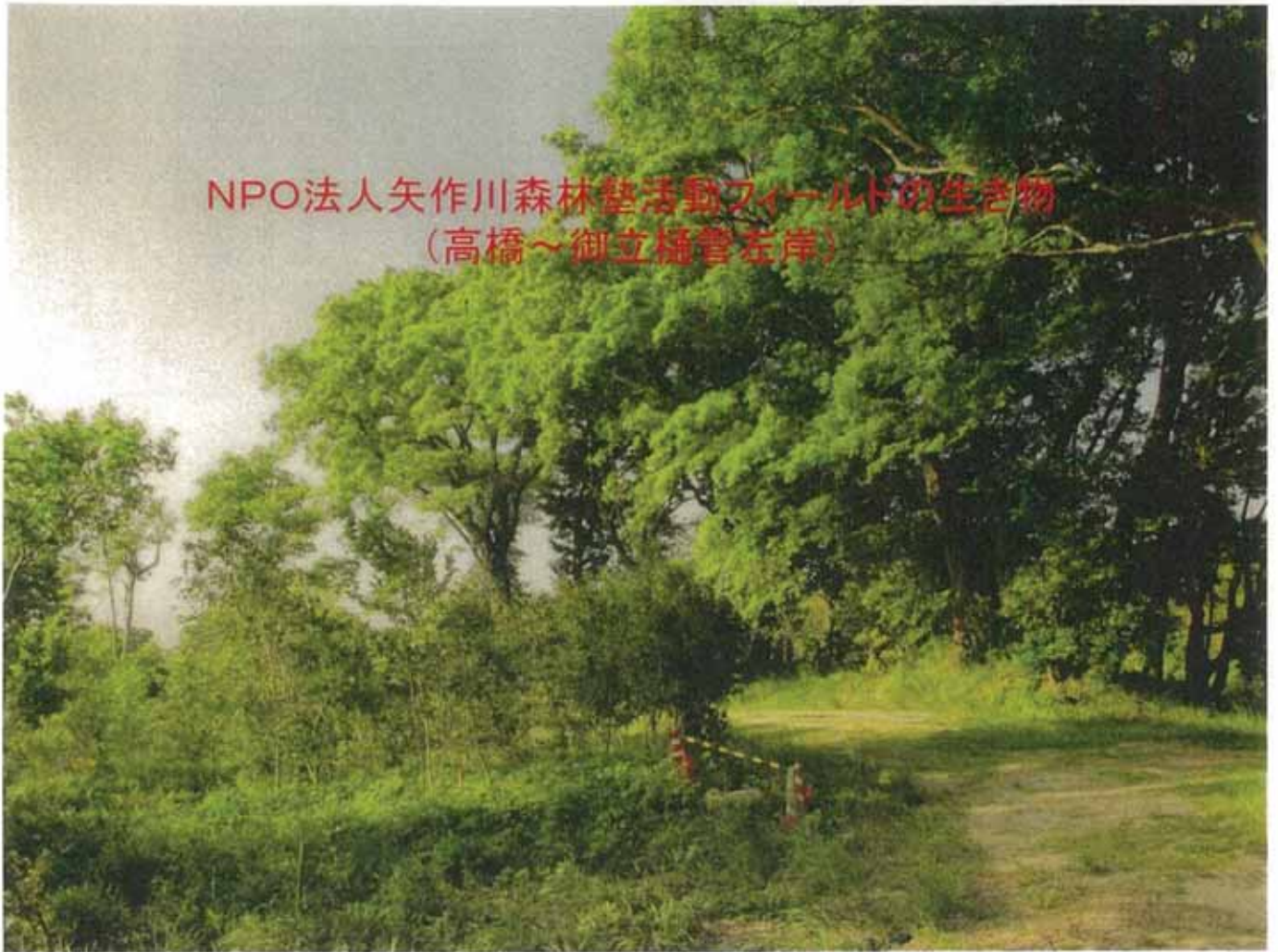
看板には「河川敷は憩いの場」とあるのに、こんなに荒れた河川敷には降りていけません。ただの危険な場所と化した川を、市民の憩いの場として取り戻す努力が必要です。

重徳議員Facebook(2013年2月17日)





NPO法人矢作川森林整備活動フィールドの生き物  
(高橋～御立樋管左岸)



活動フィールドの植生



植生調査





活動フィールドの植物

- 植物名のバックが緑色の種は **残したいもの**
- 植物名のバックが黄色の種は **駆除すべきもの**
- 植物名のバックがブルーの種は **壊れやすい種に注意が必要なもの**



解説の主な出典：フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』





アギナシ(準絶滅危惧種)



活動フィールドの動物



ヌートリア





イタチ

## 活動フィールドの鳥



## コアジサシ

国際希少野生動植物種に指定されている希少な渡り鳥





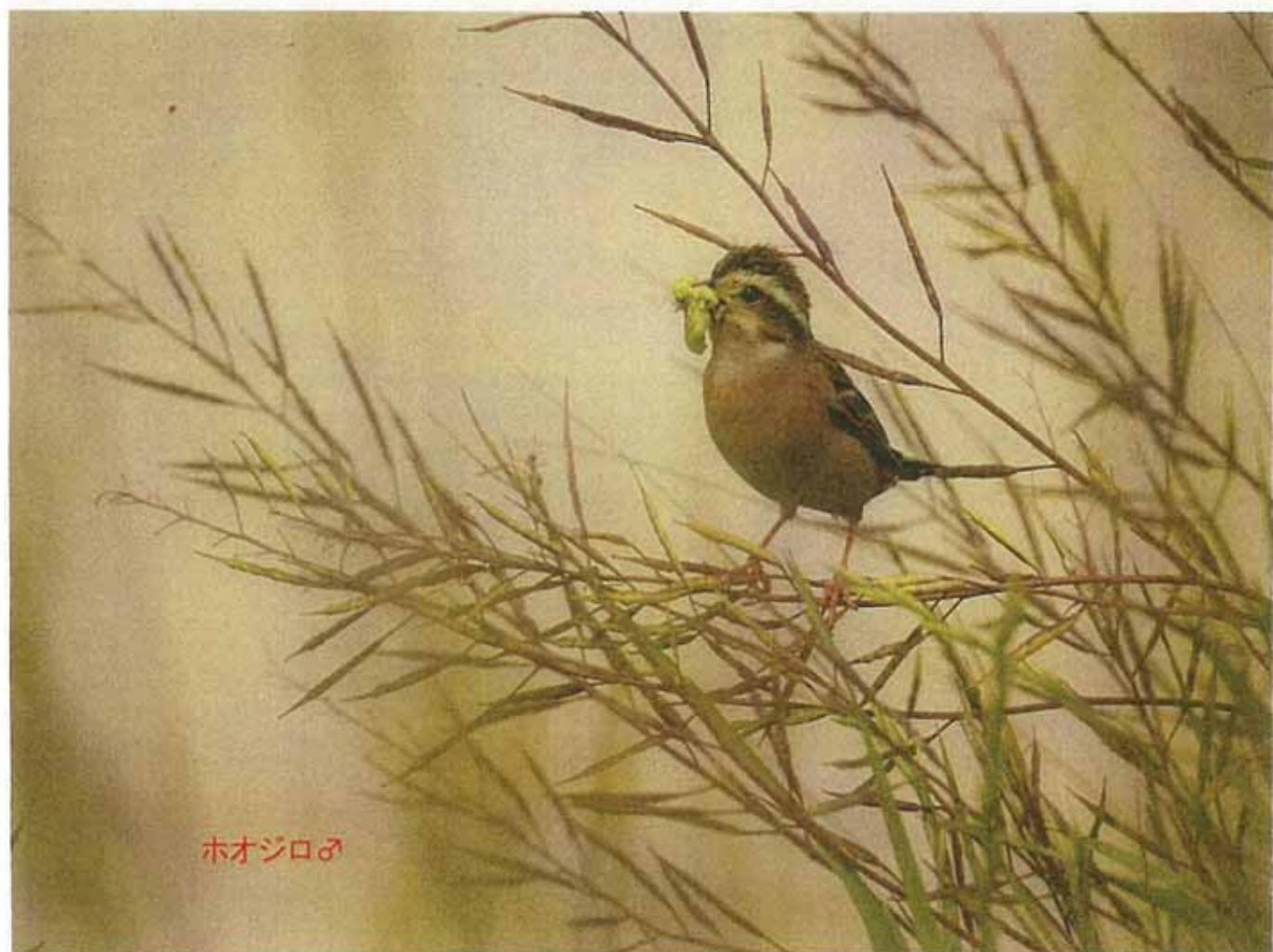
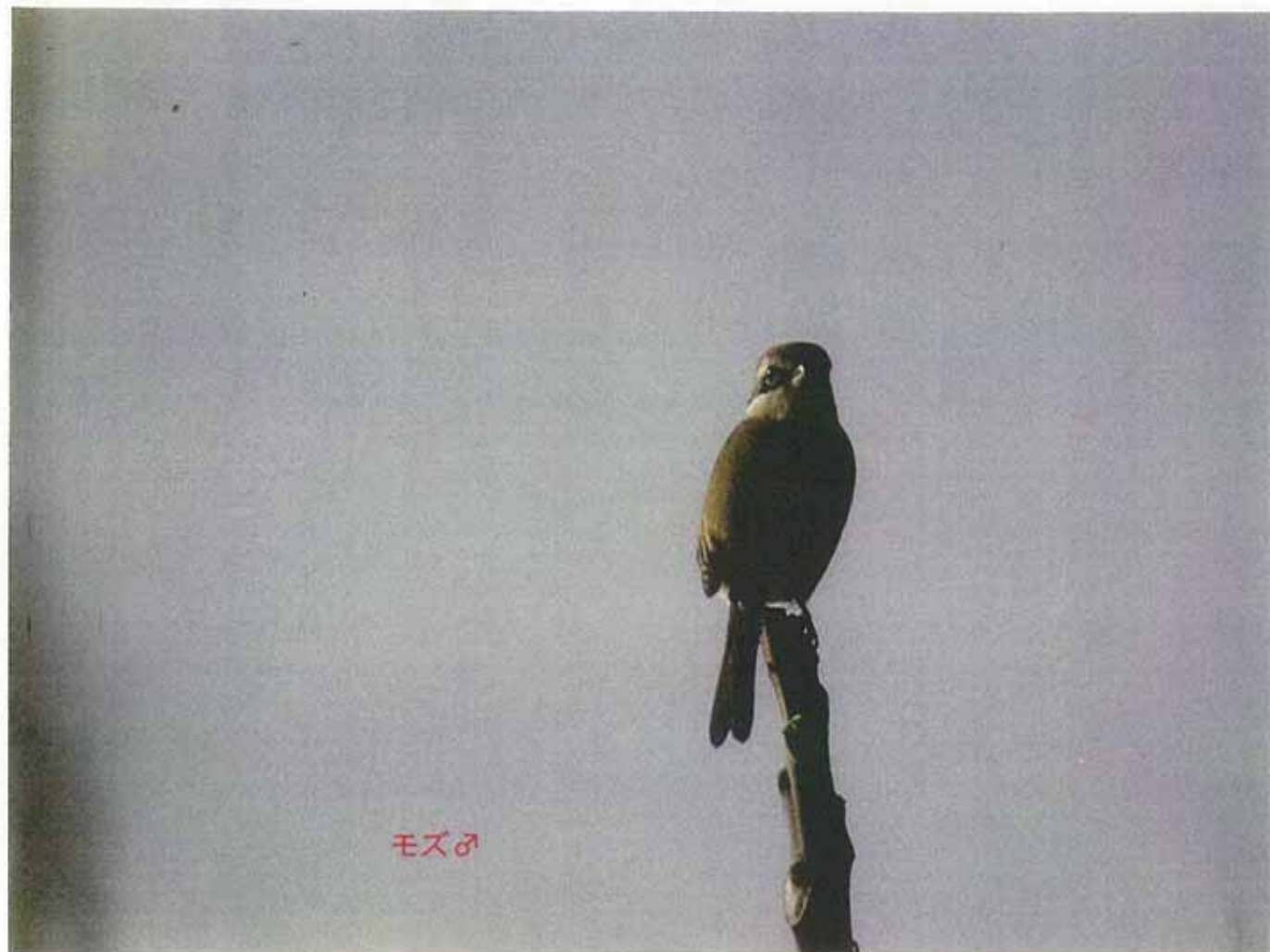
カワセミ



オオウカ

コサギ







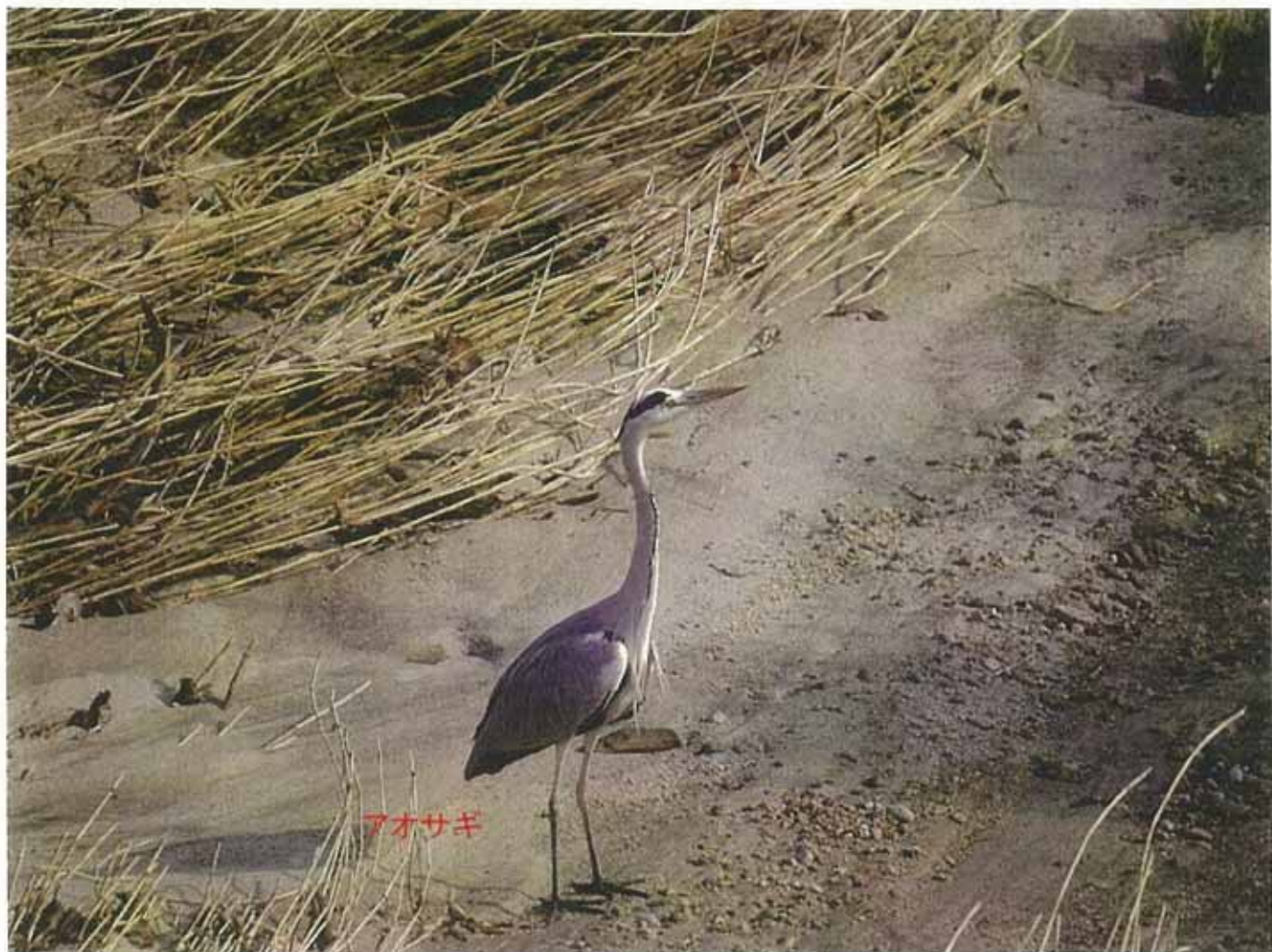


ササゴイ



アオシ

















椿の林



鬼グルミ

クワの林



クワ



鬼グルミの林





# 河川協力団体制度の創設

## ■河川協力団体制度とは？

- ◆ 河川協力団体制度とは、自発的に河川の維持、河川環境の保全等に関する活動を行うNPO等の民間団体を支援するものです。
- ◆ 河川協力団体としての活動を適正かつ確実に行うことができると認められる法人等が対象となり、河川管理者に対して申請を行います。  
申請を受けた河川管理者は、適正な審査のうえ、河川協力団体として指定します。



- ◆ 河川協力団体は、以下のような活動を行います。

### ①河川管理者に協力して行う河川工事又は河川の維持



### ②河川の管理に関する情報又は資料の収集及び提供



### ③河川の管理に関する調査研究



### ④河川の管理に関する知識の普及及び啓発



### ⑤上記に附帯する活動



国土交通省 中部地方整備局



## ■河川協力団体に指定されると

### ◆許可等の簡素化

河川協力団体が活動するために必要となる河川法上の許可等※について、河川管理者との協議の成立をもって足りることとなります。

- ※ ・工事等の実施の承認（河川法第20条）
- ・土地の占用の許可（河川法第24条）
- ・土石以外の河川産出物の採取の許可（河川法第25条後段）
- ・工作物の新築等の許可（河川法第26条第1項）
- ・土地の掘削等の許可（河川法第27条第1項）
- ・権利の譲渡の承認（河川法第34条第1項（第24条及び第25条後段の許可に係る部分に限る。））

例） 河川法第24条、第26条の許可が必要



市民団体による看板設置事例（太田川）



市民団体による活動拠点の整備事例（佐波川）

※ 河川管理者から河川管理施設の維持、除草等の委託を受けることも可能となります。委託先については、公募等の適正な手続きを経て選定を行う予定です。

【現行】

地方公共団体にのみ委託可能

拡大

【法改正後】

国土交通省令で定める要件に該当するものに委託可能

### 《委託の例》

#### ①「河川管理施設の維持」

例）堤防上の草刈り



堤防除草

#### ②「その他これに類する河川の管理に属する事項」

例）河川敷の掘削、魚道の改良



ピオトープの整備



魚道の改良

【問い合わせ先】 国土交通省 中部地方整備局 河川部 河川環境課

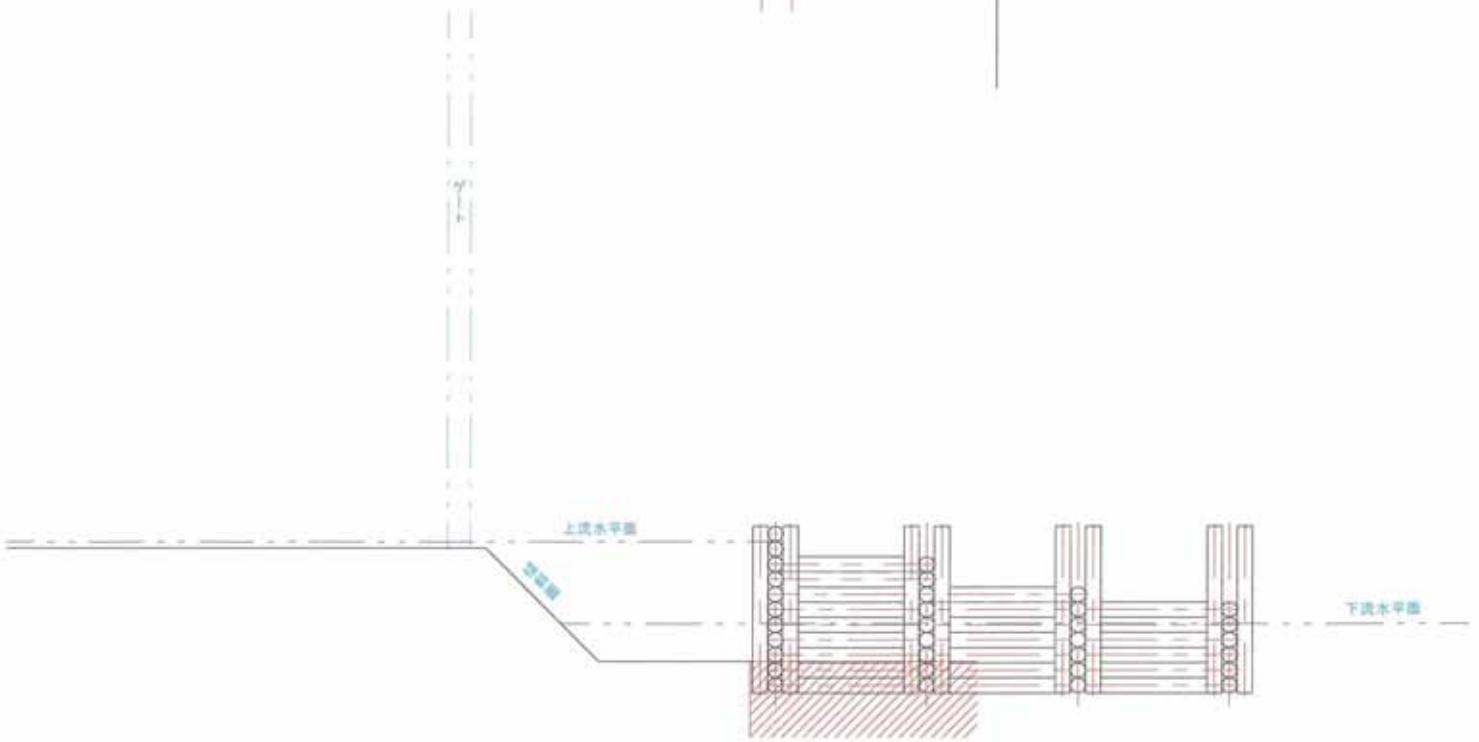
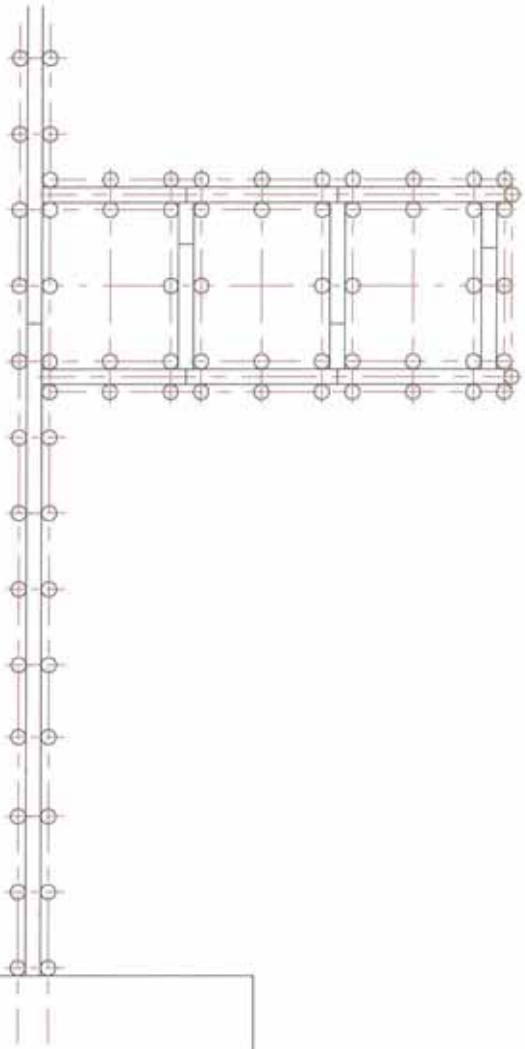
〒460-8514

愛知県名古屋市中区三の丸2-5-1 名古屋合同庁舎第2号館

電話：052-953-8151

平成25年11月作成







大同大学鷺見研究室 2014年度の矢作川調査予定等（卒論等）

1. 久澄橋下流部（わんど等調査）

- ・ 6月梅雨前、8月上旬、秋雨後 に調査
  - ・ 地形、表層土砂（細粒分）、ヤナギの分布と成長、湧水の状況
  - ・ 特に、杭周りの状況、土砂堆積の進行、ヤナギの影響
- <これまでの状況>
- ・ 差圧計測によれば、湧水がわんど上流部に集中している（別紙）。流量は毎秒 0.3L 程度。
  - ・ 湧水の加茂川との関係は未だ不明。
  - ・ 表層の玉石層までの厚さは本川では厚い。
  - ・ ヤナギとツルヨシの繁茂=>浮遊砂など、土砂堆積の傾向。

2. 菟川合流点付近の地形・土砂・オオカナダモ実験

- ・ 出水前後の変化を見る。
  - ・ 横断は水深流速（流量）・土砂（玉石隙間のもの）、水温 の分布
  - ・ ボートを使った縦断地形の調査。
  - ・ オオカナダモは室内実験を予定。（学生提案）
- <これまでの状況>
- ・ 一部に砂分は多いが、出水後時間が経過すると減るようだ。
  - ・ 気になるのは出水後の細粒分土砂の挙動。
  - ・ 本川の玉石層を1枚めくるとマサは多くある。動いているかどうか不明。

3. 矢作川河口部 干潟（自然砂州、人工干潟）

- ・ 上記同様、出水前後の変化を見る。
  - ・ 自然砂州（干潟）の移動と、人工干潟の土砂の拡散をモニタする。
- <これまでの傾向>
- ・ 昨年、自然干潟は年 80m ほど、移動した。
  - ・ 自然干潟の上流は河床低下傾向。下流は上昇傾向。
  - ・ その移動のタイミングとセットであれば、すぐに人工干潟が消滅することはない。

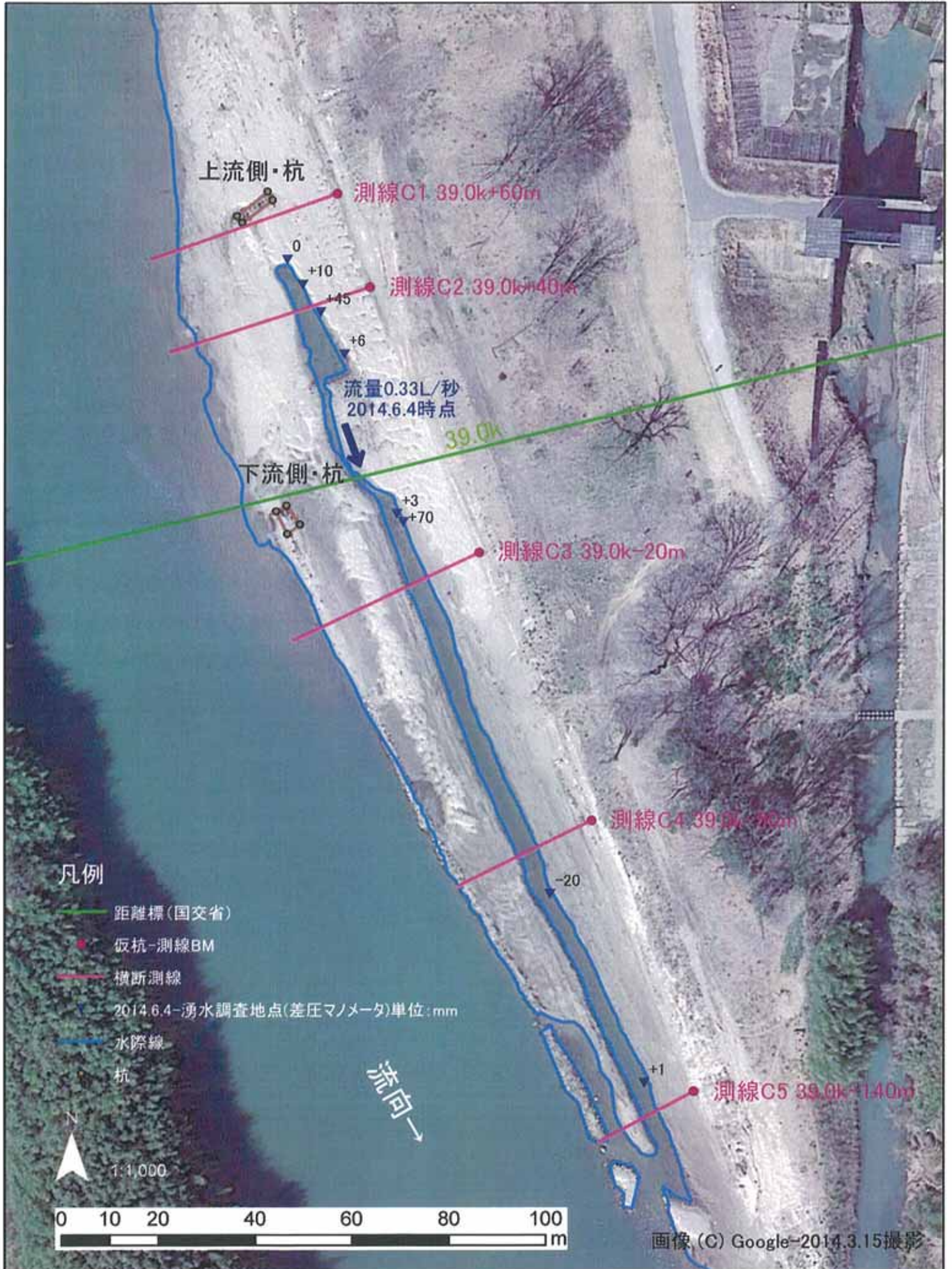
その他

- ・ 水位の縦断数地点に、自記水位計設置検討中。=>出水中水位縦断変化
- ・ 越戸下流の土砂トラップを検討中。



# 矢作川 白浜工区(豊田市)現況図

作成: 大同大学 鷺見研究室





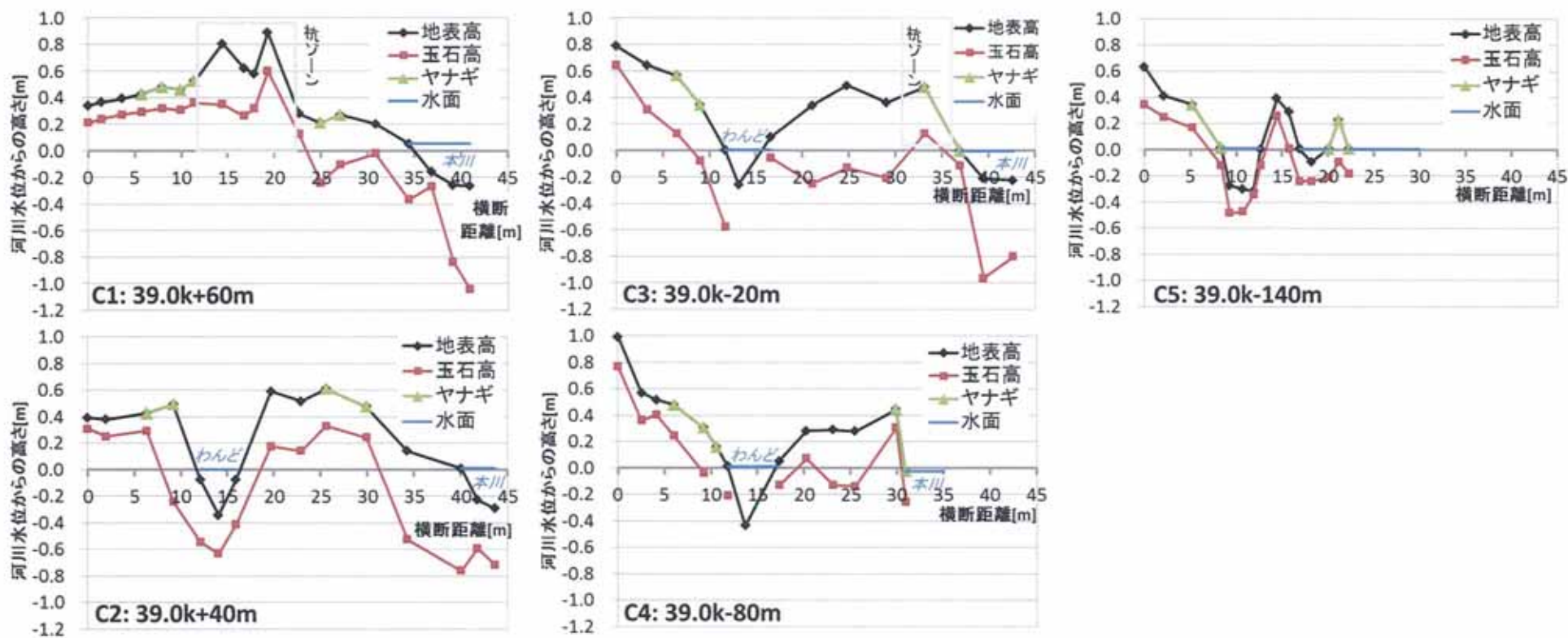


図 2014年6月19日 わんど付近の横断地形の状況 (わんど内の地形は不正確)



# 整備後の白浜工区の経緯について【本川モデル】





# 整備後の白浜工区の経緯について【本川モデル】

下流部の完成当時の状況



1年目夏の状況



2年目夏の状況



3年目春(5月)の状況



1月にせせらぎを復元



昨年台風18号後(9月)の状況





# 整備後の白浜工区の経緯について【本川モデル】





# 矢作川の台風18号による豊田地区の出水状況

御立(白浜)地区の出水時状況



御立(白浜)地区の平水時状況



御立(白浜)地区の出水時状況



御立(白浜)地区の出水時状況





# 矢作川の台風18号の洪水後の状況

高水敷に堆積した泥(シルト)



厚みは10~20cm(乾燥してひび割れ状態に)

水際に堆積した砂(きれいな細砂)



厚みは50~100cm(波状に砂が堆積)

高水敷に堆積した流木やゴミ



ところどころにゴミ(流木・ペットボトル等)

自噴池・せせらぎ水路も砂が堆積



一部残ったせせらぎ水路

砂で埋まった自噴池



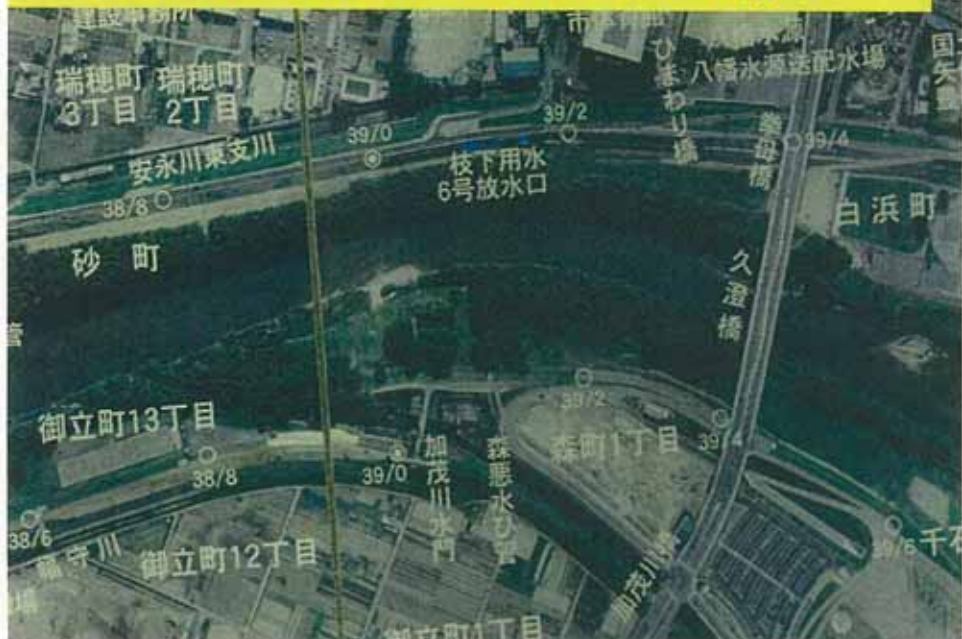
久済橋付近状況(昭和50年1月撮影)



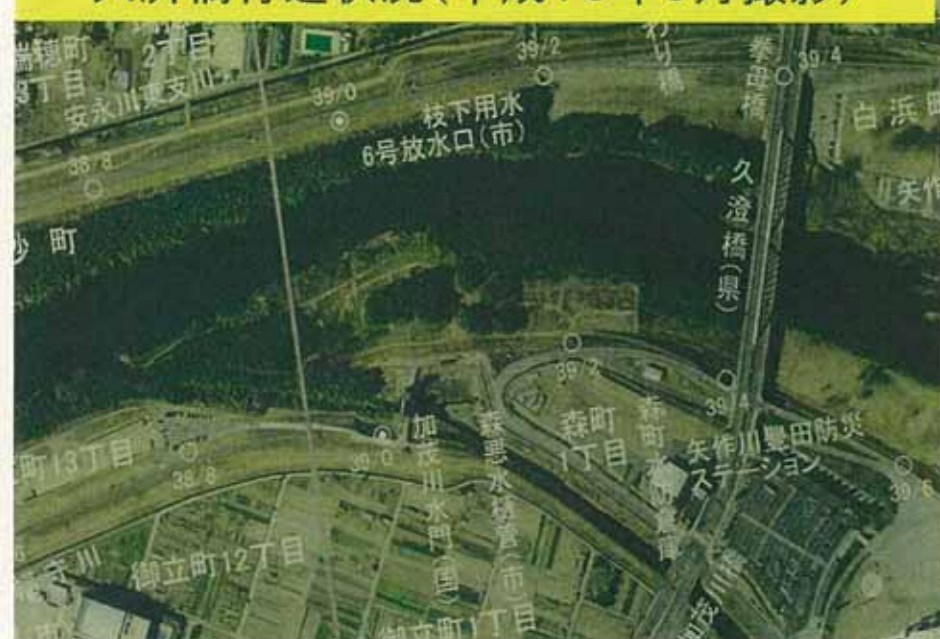
久済橋付近状況(平成4年1月撮影)



久済橋付近状況(平成22年3月撮影)

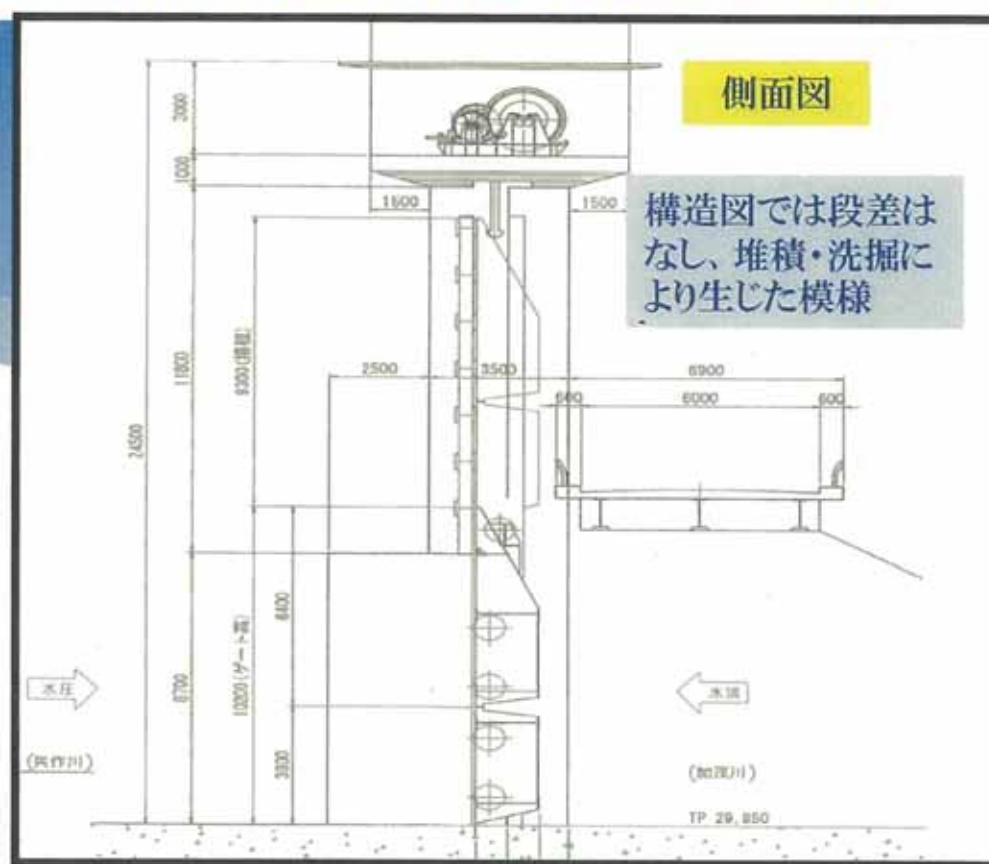
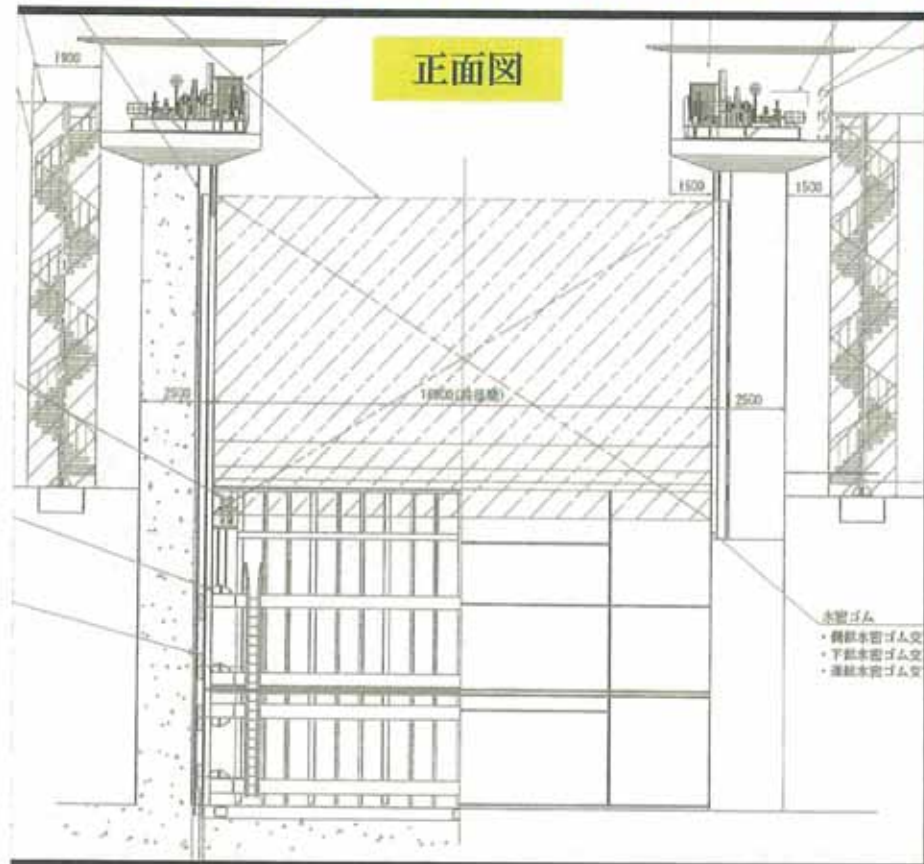


久済橋付近状況(平成15年5月撮影)





# 合流点段差 加茂川水門付近段差の状況 【本川モデル】

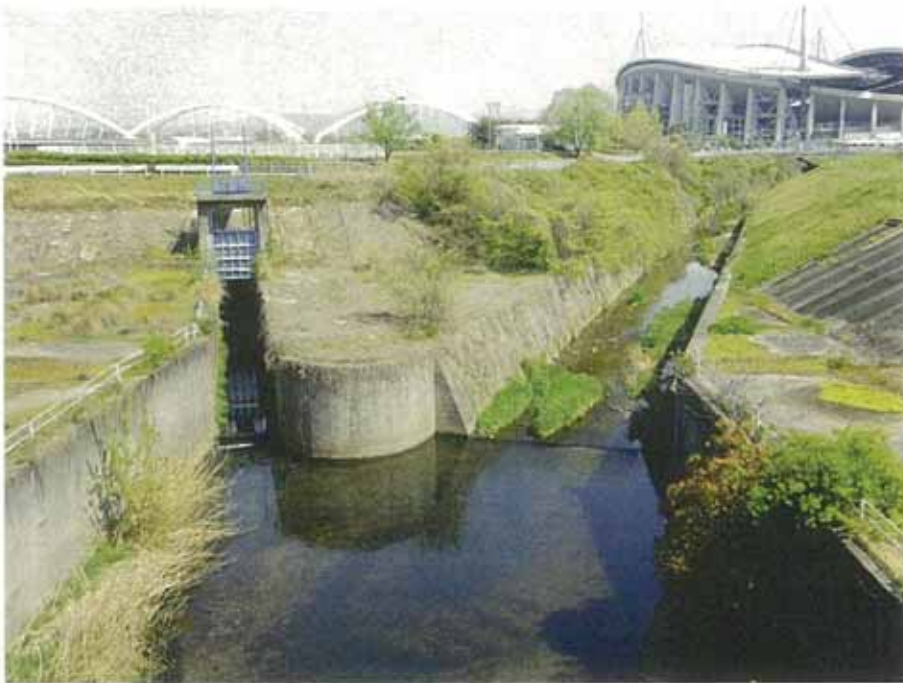




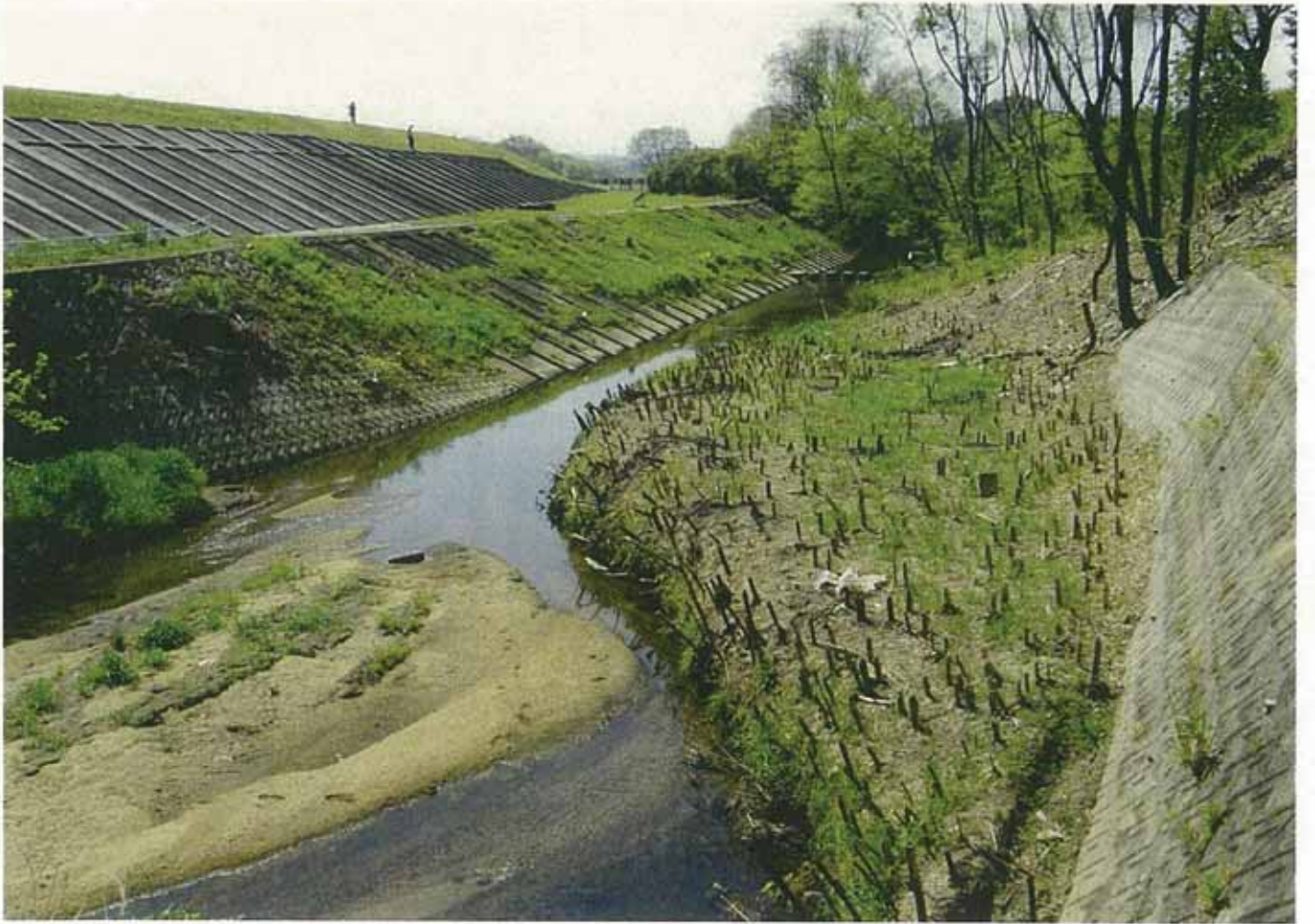
# 合流点段差 加茂川台風18号以降の河川状況 【本川モデル】













柳 檉

銀杏

櫓系

胡桃

御立町13

椿

矢作川

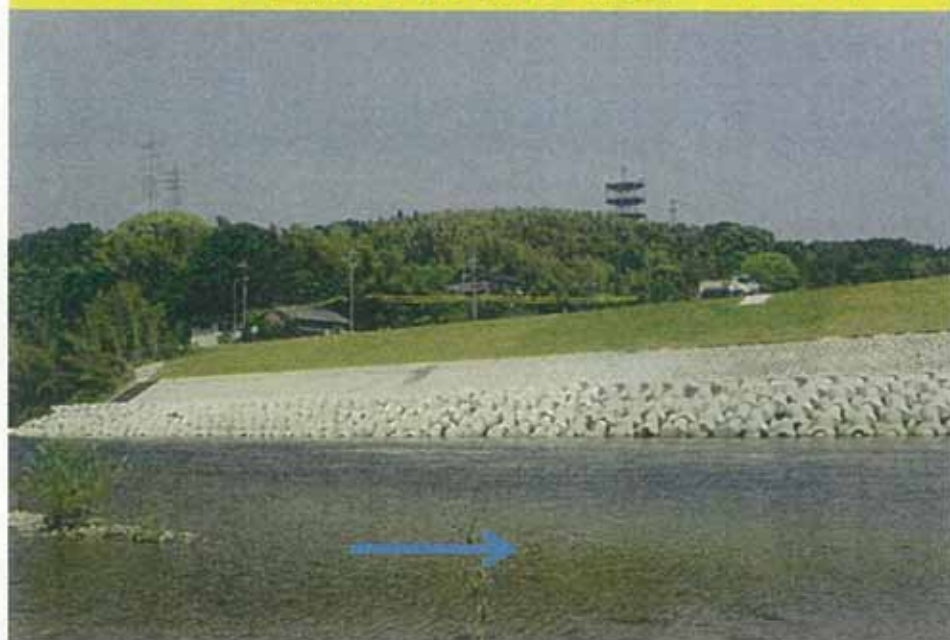
魚道・中洲の水際遊園地





# 矢作川渡合護岸補修工事 捨石・工事延長の縮小 【第12回WG指摘対応】

H25工事箇所(下流対岸より撮影 5/29)



H26工事箇所(上流対岸より撮影 5/29)



瀬替え箇所(上流部の状況 5/29)



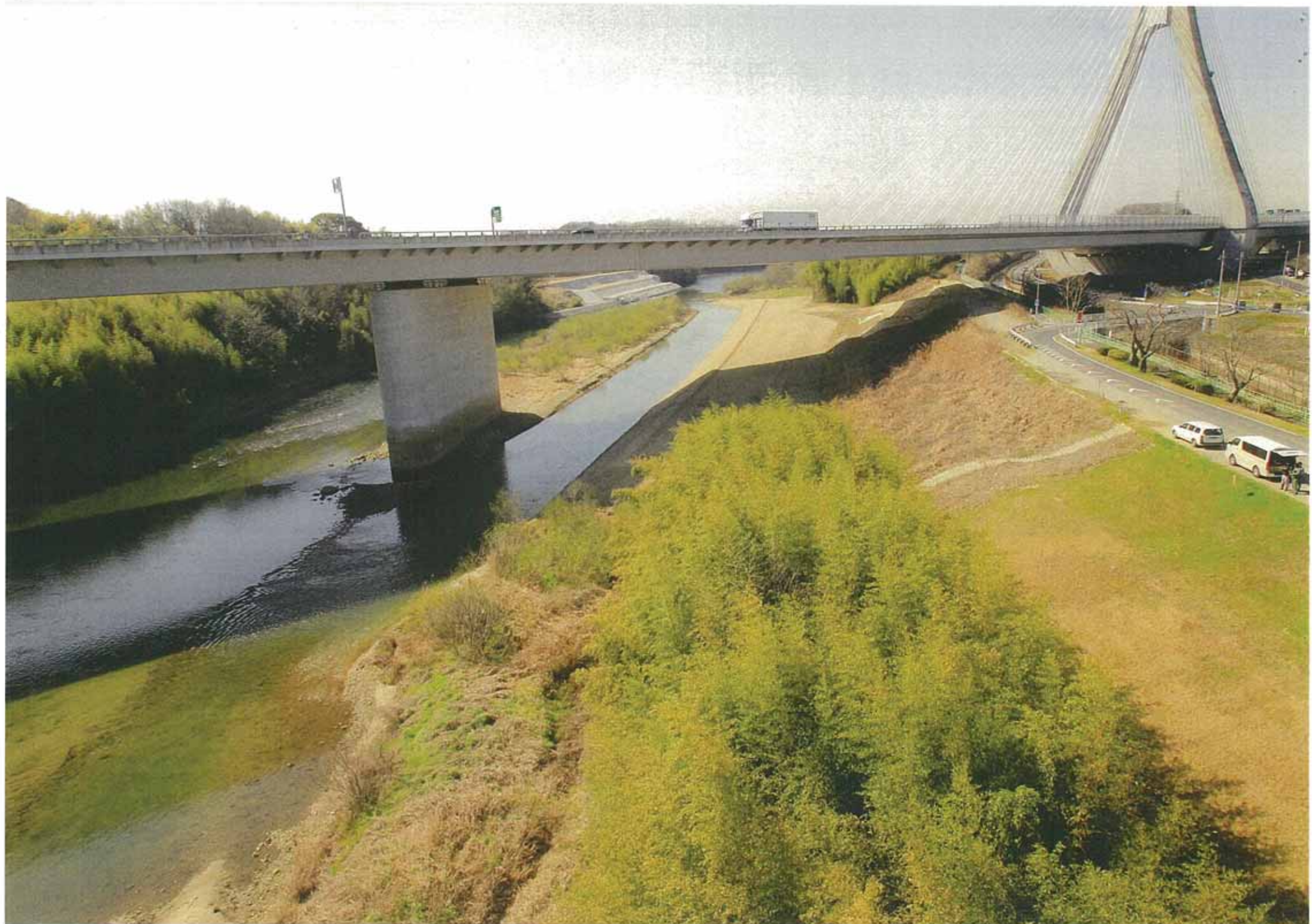
瀬替え箇所(下流部の状況 5/29)



瀬替え箇所(下流部の状況)















No.2-58 矢作川斜め写真集(No. 37) (H28.03.09撮影)



